

お客さまとの信頼関係を第一にチームワークで成長し続ける

# 株式会社 ダイシン



会社外観

## 企業概要

代表取締役社長

森本 茂裕氏 (左)

会長

森本 直氏 (右)



所在地 三重県四日市市広永町1387番地1  
TEL:059-329-6811 FAX:059-329-6812

設立 1994年11月

資本金 1,000万円

従業員数 20人(2020年11月現在)

事業内容 配管工事、装置設計・製造、工事設計・施工、土木工事、  
一般派遣、ナノバルブシステム販売・施工、ドローン事業、  
トマト栽培設備開発(子会社SIAM DAISHIN CO.,LTD.)

URL <http://k-daishin.jp/>

## 創業

現場を熟知する社員が設計から施工まで一貫して配管工事をフルサポート。チームワークを重視し、二人二人の力の総和をより大きなものに変えていく技術者集団。かと思いきや、タイでは完全オーガニックのトマトを栽培し、オーガニック雑誌の表紙を飾ってしまう。そのうえ、タイの優秀な人材を日本企業に紹介しようとしている株式会社ダイシンとは、いったいどんな会社？

伊勢湾岸自動車道みえ朝日ICを降りてすぐのところ、真新しい社屋と本社工場を構える株式会社ダイシン。創業は1991年だが、本格的に配管工事業を始めたのはしばらく後である。それまで家業を手伝っていた現会長の森本直氏が、大手電機メーカーの知り合いからガス配管工事を頼まれたことがきっかけだ。もともと油圧部品に携わっていたことから基礎知識はあったが、ガスの取扱いは初めてであったため、当初の5年は勉強の日々だったと話す。息子で現社長の茂裕氏が会社に加わり、1994年に有限会社ダイシンを設立。2003年には株式会社へ組織変更した。

使ってくる、直氏は外注を多く使うようになる。それは仕事の受注数の波によって従業員を不安定にさせないためであるが、自分一人だけではなく外注を使うことでより大きな仕事に取り組むことができる、ということを知った従業員に知ってほしいという直氏の考えがあった。

しばらくは工場中心の仕事であったが、多くの資格を取得し、



整理整頓された工場





きれいな職場で

現場が分かりかつ設計もできるということであちこちから声がかかり、徐々に工場以外の仕事を増やしていく。従業員が互いに切磋琢磨し、困難な仕事でも断らずに成し遂げていったことで信頼を勝ち取り、同社は徐々に成長していった。困難な仕事をこなしてこれたのは、一人一人が知恵を出し合い問題を解決してきたチームワークの成果だ。

ガスといつても自然には存在しないガスや人体に危険を及ぼすガスを多く取り扱っており、その扱いには高度な技術を要す。その技術の蓄積により仕事の幅が広がり、現在は大手自動車メーカーの水素自動車の発電部分の評価する装置を作る業務にまでつながっている。

### 人材育成

同社は配管工事を設計から施工まで一貫して受注できることが強みであるが、最初から人材が揃っていたわけではない。中小企業にはなかなか人材が集まりにくい。創業以来一人一人を育てている。同社の根幹には

「良いものは常に変わる。ものだけではない、考え方もシステムも常に変わっていく。常に探求しなければならぬ」という理念がある。それを何度も社内で行い続けてきた。また、人と同じものを同じやり方で作ることに満足しないよう、常に新しいやり方、より良いやり方を研究していくよう徹底し、ものだけではなく、人も作り上げてきた。

従業員教育に力を入れている同社だが、その中でもユニークなのが、10年ほど前から年2回従業員全員にレポートを提出させていることだ。当初は読書感想文から始まったが、現在は従業員が順番にテーマを考え、そのテーマについてレポートを提出している。同社にはタイ人も在籍しているが、日本語で提出している。そして、みんな読んで賞を決めている。レポートを読むことでお互いの勉強にもなるし、従業員が何を考えているのか、新しいアイデアなども知ることができるといふ。

「そのように育ててきた従業員が、ある現場でベスト監督賞に

選ばれるまでに成長した」と直氏は目を細めて話していた。

### トマト事業

事業を順調に拡大させる中、直氏はタイでオーガニックトマトの栽培を開始する。病気の治療のために訪れたタイでトマトがあまり美味しくなかった。そんなタイで知り合った日本人から2,000坪の土地があるからトマトを作ってみたら、と話を持ち掛けられたことがきっかけだ。早速、現地法人SIAM DAISHINを設立し、同社の従業員を研修に送りトマト栽培を開始した。現地の人が驚くようなハウスを建てたが、台風や雪が少ないタイでは日本より費用はかからなかった。人件費も



オーガニックトマトの栽培

業を開始するが、その先には20,000坪の農場を作る計画がある。また、タイで知り合ったベルギー人からもトマト栽培について引き合いが来ている。

トマトの名前は「裕ちゃんトマト」。亡くなられた直氏の奥様からとった名前だ。

### タイの人材を日本へ

近年の日本では、人手が足りない状況が続く。一方、タイで人気のある職業は公務員だが、公務員になれず就職浪人している優秀な大学生がたくさんいることを直氏は知る。そこに目を付け、優秀な学生に日本語を学ばせ、日本企業に紹介したら互いのメリットにつながるのではと考えた。そこでマンパワー事業部を立ち上げ、2016年に人材派遣資格を取得、2020年になり有料職業紹介資格を取得した。タイには現地法人ダイシンマンパワーを設立し、現地の大卒人材を登録。希望する業界などニーズを聞き取り、日本企業とマッチングする体制を整備している。現在、若手社員を中心に事業を進

めており、特に人材が不足している農業、介護業界や観光・サービス業界に紹介し、日本で正社員として働いてもらいたいと考えている。トマト栽培の関係からタイの農業大学とも連携が取れた。同社は、人材紹介を利益につなげるつもりはない。もともとは病気の治療のため訪れたタイと日本を橋渡しし、タイに恩返しをしたいというのが直氏の考えだ。国内の中小企業にはなかなか人材が来ない。しかしタイには優秀な人材がたくさんいる。現在、同社では4年制大学を卒業し、技術、人文、国際の分野でビザを取った人材を6人正規雇用している。貴重な戦力だ。技能実習生であれば数年で帰国しなければならず、日本に来るために現地の仲介業者に支払う本人の金銭負担も大きい。正規雇用でビザを申請すれば、何もないまま滞在期間は更新され、企業も安心して長期雇用ができる。

「良い人材を良い会社」をモットーに、人材不足に悩む日本の中小企業に優秀な外国人を紹介して活気づけていくことも

安い。また、他との差別化を図るためには無農薬・有機栽培、いわゆるオーガニック要素は欠かせない。何度も失敗し苦労しながらも成功に漕ぎつけた。今では「タイ国内で一番おいしいトマト」と評価され、タイ国内の有名高級スーパーなどで取り扱われている。オーガニックかつおいしいからこそ十分な価格設定ができ、タイの富裕層をターゲットに販売は好調だ。

実はタイのトマト事業の成功には、本業が大きく関わっている。同社はガスの制御盤も取り扱っているが、空気温度・湿度、土の温度・湿度・栄養分のデータを取り、組み合わせ、同社の制御技術・配管技術を使って水分栄養分・温度・湿度の調節を行っている。今後の目標は、太陽光の明



現地法人SIAM DAISHIN

に、外国人に刺激を受けた日本人が成長していくことを同社は望んでいる。

「従業員みんなが、夢と希望を持って仕事に取り組む。そんな会社にしていきたい」、株式会社ダイシンは夢の実現に向け、また次の夢に向かって、今日も走り続ける。

文〓会員事業部 河野努

### 支店より一言

チームワークで、多様な事業を展開し成長している同社。常に「社員一丸となりより良いものを追求し続ける」という、同社の創業時からの組織風土があるからだと思えます。

「タイと日本双方に良いものを」との森本会長の熱い思いを込めて立ち上げた「人材紹介事業」でも、皆様のお役に立っています。ただけると確信しています。



百五銀行 いなべ支店長 川上 修